

町内会活動の見える化集

地域社会で果たしている役割がよく分かります

広島市佐伯区まちづくり百人委員会

町内会いきいき部会編

町内会の見える化

町内会が築く地域社会の基盤

《町内会は地域社会の要です》

町内会は“向こう三軒両隣”の絆(班組織)を基盤とした地域住民による自治組織です。

地域住民の合意形成やコミュニティ活動を通じて、防犯灯の設置や子どもの見守り、地域での防犯活動など、安全・安心の環境づくりに寄与しています。また回覧や掲示板等による情報共有でも大切な役割を担っています。

その他ごみ置き場の設置や管理、子ども会やシニアクラブ(老人会)などの支援、赤い羽根共同募金、災害義援金の取組や献血への協力など、社会基盤を支える役割を担っています。投票所の立会人、国勢調査員、民生委員の推薦、行政への活動にも協力しています。

“とんど祭り” “盆踊り” “お祭り” 等、昔から伝わる地域の伝統行事の伝承にも主体的な役割を担っています。

防犯灯の設置

地域の防犯灯は町内会と行政が設置している

- ・防犯灯は町内会の要望を受け行政が設置している
- ・防犯灯の間隔が狭いなど行政が設置しない場合には町内会が設置している
- ・町内会で設置する場合、“設置にかかる費用” “電気料金” “電球の交換” は行政の補助がある
- ・LEDに順次交換している

設置の際、近隣住民の合意をとっている

- ・設置場所について近隣の住民と事前調整をする
- ・電柱の設置場所の確保

維持管理・監視体制

- ・近隣住民や夜間パトロール等で点検している
- ・電球交換は町内会（役員・住民）から行政に連絡

《社会的インパクト》

道路が暗いと危険で不安ですが、明るいと安心で地域のイメージがよくなります。行政支援の面でも、白熱灯からLEDへの切り替えがあります。

ごみ置き場の設置

ごみ置き場で地域住民の合意形成

- ・収集までの「ごみ置き場」は住民の合意が必要
- ・「ごみ置き場」は利用者で維持管理している
- ・カラス、猫の被害防止（ボックス、ネットの設置）

分別収集に寄与している

- ・広島市制定の分別収集でのごみ出しに協力
- ・資源ごみはリサイクルし、再利用されている

有価資源として収益源になっている

- ・特定の収集業者との契約で売却益がある
- ・分別された資源（紙、段ボール、アルミ、金属類）

《社会的インパクト》

市街地では、空き地等のごみ集積場が確保されていない地域が多くあります。こうした地域では歩道に一時ごみ置き場が設置されます。

この場合、一時ごみ置き場の設置場所や管理等については町内会が調整役となっています。

行政の委員等の推薦

投票所の立会人

- ・各投票所の立会人（市民）の推薦
- ・法的要件ではないが町内会の推薦者が選任される
- ・他地区では公募しているケースもある
- ・投票所の事務従事者も町内会が推薦している

国勢調査員

- ・5年に一度全国で実施される国勢調査に従事する
- ・総務大臣任命の非常勤の国家公務員になる（従事期間）

民生委員・児童委員

- ・広島市長の推薦で厚生労働大臣が委嘱する
- ・広島市では地域の町内会長、地区社協の会長の推薦を前提としている
- ・町内会加入者でないと推薦は困難である

《社会的インパクト》

現状では“なり手不足”で、定数を確保できない自治体もあります。広島市では地域事情に詳しい町内会の推薦は貴重な支援となっています。

回覧板で情報共有

回覧板がつなぐ地域情報

- ・ 地域イベントの情報提供（お祭り、盆踊りなど）
- ・ 行政のお知らせ（ごみカレンダー、区民まつりなど）
- ・ 安全・安心の情報（警察、消防などのお知らせ）
- ・ 各団体からの情報（社協、交通安全協会などのお知らせ）

回覧板が安否確認の役割

- ・ 旅行などで不在時は「回覧板飛ばし」の連絡
- ・ 回覧板を届けた時、声掛けでちょこっと交流

コミュニティは回覧板の範囲が原点

- ・ 回覧板の範囲がほどよいコミュニティの領域

《社会的インパクト》

昔は「井戸端会議」が地域情報の発信元でした。

現代版の「井戸端会議」が回覧板です。回覧板によって、グループの緩やかな安否確認が行われています。IT社会になっていますが、地域では情報紙も大切な役割を果たしています。

一斉清掃が交流の場

佐伯区では2回／年の一斉清掃を実施

- ・地域の歩道やのり面の除草作業に参加する
- ・普段は難しい小川の清掃
- ・ごみ袋は地域ごとに一定の集積場に集めておく
- ・ごみ袋は後日行政（委託業者）が収集する

のり面の除草

- ・一定範囲の“のり面除草”は行政の仕事（委託業者など）
- ・補助制度を活用した地域ボランティアの活動

一斉清掃が交流の場

- ・清掃を終えたら井戸端会議
- ・清掃後の達成感

《社会的インパクト》

日ごろは顔を合わせる機会が少ないが、一斉清掃日はほぼ地域の全員が集まるチャンスです。

日ごろ町内会に無縁な男性の参加もあるので、貴重な顔合わせの場になります。

とんど祭り



地域に伝わる伝統行事

- ・年始の伝統行事として行われている
- ・しめ飾り、書き初め等を燃やす
- ・とんどの火で餅を焼いて食べる風習がある
- ・継承、協力し合うことで世代交流の場となる

孟宗竹を根元から切って立てかける

- ・5～6 m以上の高い孟宗竹を広場に組み立てる
- ・中央部には燃えやすいように藁などを入れる

孟宗竹の確保と燃えかすの処分が大変

- ・近くに竹藪がないと運搬が難しい
- ・組み立てや灰の処分などノウハウと労力が必要
- ・事前に消防署への届出が必要

《社会的インパクト》

野外で火をたくので子どもにも人気があり、正月気分から日常生活への切り替えの行事として、地域の人たちにとって郷愁を誘います。こうした伝統行事を絶やさないように伝承することは、地域社会の絆を築く目に見える活動といえます。

ソーメン流し

孟宗竹を使って作る

- ・ 孟宗竹を先端から半割りして節を削り取る
- ・ 数m～数十mの長さで勾配をつける
- ・ ソーメンを食べる器や箸も竹で作る

ソーメンの準備

- ・ ソーメンをその場で茹でる。または、スタッフが手分けして茹でて持ちよる
- ・ 清潔な水道水を使用する

水と一緒にソーメンを流す

- ・ 茹でたソーメンを流す
- ・ 流れるソーメンを箸ですくって食べる
- ・ ぶどうやミニトマトなど、ソーメン以外も流す

《社会的インパクト》

ソーメン流しは夏の風物詩として子どもに人気があり、最近竹に似せたプラスチック製の樋も販売していますが、自然派の人たちは手間暇をかけて、竹カップに竹の箸まで作ります。

子どもの見守り

登下校の見守り

- ・ 地域の子どもたちの登下校時に安全の見守り
- ・ ウォーキング、犬の散歩等の“ながら見守り”
- ・ 横断歩道の正しい渡り方や誘導
- ・ 学校との緩やかな連携



スタッフジャンパーで識別

- ・ ジャンパーやタスキで分かりやすい服装
- ・ 通学する子どもたちとあいさつし顔なじみになる

監視カメラに変わる機能

- ・ 見守り活動が目に見えることで犯罪抑止効果がある

《社会的インパクト》

最近、登下校時の交通事故や犯罪に子どもが巻き込まれるニュースがあります。この場合、第三者の目が届いていません。

毎日の見守り活動は、こうした事故や犯罪の予防になっています。

有価資源回収

分類すれば資源になる

- ・段ボール、紙類、アルミ缶、スチール缶、鉄類等
(契約業者により異なる)
- ・資源ごとに売却価額の契約
- ・集積場では種類ごとの分類を徹底する
- ・町内会運営資金の足しになり、町内会が実施する有価資源回収への搬出意欲を高める

収集日を変える

- ・市の一般ごみ収集がない曜日に出すなど工夫
- ・収集日は2回／月程度
- ・有価資源の収集カレンダーを配付

特定業者との契約

- ・特定業者と契約し、収集車にステッカーを貼る
- ・財産権がある（契約業者以外の収集は告発）

《社会的インパクト》

有価資源回収による収益金は、別途会計として新たな地域課題の解決に対処する社会実験的な取組み、あるいは単発的なイベント開催等の費用に充当し、地域の活性化に寄与します。

エリアコミュニティ

地域住民の総意

- ・町内会の活動は地域住民の自治活動である
- ・町内会の決定事項は地域住民の総意である

地域内のテーマ別組織

- ・社会福祉協議会（まごころ弁当、いきいきサロン）
- ・公衆衛生推進協議会（河川清掃、献血、健康診断等の活動）
- ・青少年健全育成連絡協議会（地域の子どもたちの見守り活動）
- ・防災、防犯協議会（地域の安全、安心を推進する活動）
- ・体育協会
- ・シニアクラブ（老人会）

《社会的インパクト》

一定の街区で形成される町内会組織は、住民自治活動の原点になる組織です。

住みよいまちとは、利便性やインフラ整備だけでなく、ふれあいや助け合いのある心豊かなコミュニティも重要な要素です。

青色防犯パトロール

警察から認定された防犯活動

- ・防犯活動に取り組む町内会等の地域団体が対象
- ・警察で防犯活動団体と認定された活動である
- ・従事者は警察の講習会を受講（3年ごとに講習がある）

青色回転灯の使用

- ・地域内のパトロール活動で防犯や交通安全に寄与
- ・活動中は車体に「防犯パトロール」等の表示をする
- ・パトロール使用車は中国運輸局に登録する
- ・一定の要件を満たした自動車に青色灯をつける
- ・青色灯を点滅させながら地域をパトロールする

回転灯が目立つ

- ・住民の防犯活動への意識向上に役立っている
- ・地域内の小道を走行するため犯罪の死角がなくなる

《社会的インパクト》

青色回転灯をつけてパトロールすることで、地域の防犯効果は大きく、住民にとっても安心感が高まり、緊急車両の赤色灯と同様のインパクト効果が期待できます。

地域の集会所

集会所の維持管理

- ・地域の集会所は町内会が管理運営委員会を組織し維持管理している（住宅団地等）
- ・水道光熱費等の維持管理費用の負担
- ・建物の維持管理、補修
- ・什器備品の調達、管理の負担など

メリット・デメリット

- ・飲食、利用時間等が自由に設定できる
- ・町内会の活動が自由にできる
- ・地域住民の近くにあるので投票所にもなる
- ・災害時の自主避難所になる
- ・建物や付属設備の維持管理費は地域負担である
- ・利用者の調整、鍵の受け渡し等の管理者が必要

《社会的インパクト》

町内会の活動拠点として自由に使用できる集会所は、コミュニティの維持発展のために大切な役割を果たしています。

地域生活交通

公共交通と高齢者

- ・バスの減便によって外出が不便になった
- ・郊外の住宅団地は坂道が多くバス停までが厳しい

バス運行と運営

- ・町内会等で協議会を構成し運営を行う
- ・交通事業者と乗合タクシー等の運行契約をする
- ・運行コースや乗降場所等は協議会で考える
- ・赤字額の負担を含めた運営（町内会等）
- ・利用者は一定額の利用料金を負担する
- ・要件を満たせば、行政の補助金を活用できる

《社会的インパクト》

公共交通機関の利便性低下によって、高齢者の引きこもりが増える傾向があります。特に住宅団地では坂道が多く、高齢者にとってはバス減便によって引きこもりリスク負担が高くなるので、この引きこもり防止に寄与できます。



防犯カメラの設置

設置場所の確保

- ・カメラは家屋や街路灯等に固定する
- ・電源は別途に配線工事が必要
- ・撮影範囲に住宅や店舗等が入る場合には、事前に同意を得ておく
- ・警察署との協議も必要

維持管理について

- ・町内会が電力料金を負担している
- ・定期的なメンテナンスや消耗品の交換、データ抽出、故障時の修理費用も必要

プライバシーの保護

- ・常時、出入りが記録されるため慎重な記録管理が必要
- ・モニターの閲覧者を指定して、適切な管理を行う

《社会的インパクト》

犯罪が発生した場合、犯人の逃走経路等の確認で警察への協力を役立ちます。

また、夜間の不審者等についても、万一の場合カメラ映像で確認できるので、住民の安心感が増大します。不審者や街頭犯罪を抑止する効果を高めます。

地域内のグループ

地域内のグループ組織

- ・シニアクラブ（老人会）、子ども会（同一世代の組織）
- ・女性会、婦人部（趣味や特性を生かした組織）
- ・青年部（子育て世代の組織）

地域課題に取り組む活動組織

- ・小学生の登下校の見守り
- ・防犯パトロール

趣味・娯楽の活動組織

- ・グラウンドゴルフ、ゲートボール、体操など
- ・カラオケ、絵画、ダンス、合唱など

《社会的インパクト》

スポーツや娯楽等を通じて、豊かな人生を楽しむグループ活動は、地域コミュニティの形成にも大きく貢献しています。子ども会の活動は地域にとって次世代の育成につながっています。

コミュニティカフェ

気軽に立ち寄る街の縁側

- ・集会所や空き家等のスペースを利用したコミュニティカフェは、誰でも気軽に参加できる“街の縁側”
- ・コーヒー＋クッキーが低額で利用できる（100円程度）

ミニショップ

- ・野菜、切り花、手づくりクッキー、衣類などの販売
- ・包丁研ぎ、ネックレス磨き

相談コーナー

- ・介護、リフォーム、年金、金融

高齢者いきいきポイント

- ・広島市の施策：参加でポイントが加算される

《社会的インパクト》

高齢化に伴って、外出機会が減少し引きこもりの高齢者が増加します。その結果として認知症になる心配があります。

コミュニティカフェの出会いと語り合いが、認知症予防につながっています。

パトロール



昔は火の用心・いまは防犯・防災パトロール

- ・地域の安全・安心を推進する見守り活動
- ・定期的なパトロール活動

あいさつ活動

- ・出勤時間帯にスタッフが通勤者にあいさつする
- ・不法駐輪等の防止PR

災害時のパトロール

- ・災害時に避難した地域の安全見守り
- ・避難者の誘導、連絡等

《社会的インパクト》

タスキやジャンパー等の目立つ服装で、あいさつや地域の見回り活動をすることで、犯罪や事故の防止につながっています。自転車の不法駐輪や無施錠の防止にも貢献しています。

盆踊り



先祖の霊を供養する行事

- ・お盆に先祖の霊が帰ってくる迎いの行事
- ・この一年に亡くなった人の供養をする
- ・念仏踊りから始まった

地域住民の娯楽として

- ・供養の後は住民の娯楽として踊りが行われる
- ・音頭取り、太鼓のために中央にやぐらを組み立てる
- ・踊りの音楽を流す放送機材を設営する

地域の民謡や踊りの伝承

- ・その地区に伝わる盆踊りや歌が伝承されている

《社会的インパクト》

盆踊りは先祖を偲ぶ宗教行事から始まっていますが、今では秋まつりに並ぶ地域の行事となっています。浴衣を着て夏の一夜を踊りあかすことは、夏休み中の子どもにとっても夜更かしができる楽しい思い出づくりになっています。

門松づくり

小学校の正門などに門松

- ・新春を寿ぐ松竹梅の門松を住民の手づくりでつくる
- ・新年を祝う門松を小学校などにたてる
- ・太い孟宗竹と若松などの確保
- ・とんど祭りの時、解体して燃やす

家のしめ縄づくり

- ・家の玄関先に飾るしめ縄を自分で作る
- ・稲わら、裏じろ、南天などの材料の準備
- ・長いままの稲わらを確保する



《社会的インパクト》

大きな門松を小学校などに置くことで、通学の子ども達が日々目にして、日本の伝統文化に接することができます。また正月という非日常の意義も門松を通じて知ることができます。

ごみボックスが掲示板

ごみボックスに情報を掲示する

- ・ごみボックスを掲示板として利用する
- ・利用頻度が高いごみボックスは目につきやすい
- ・通行する人も見る

回覧板を補完する情報提供

- ・イベント情報のポスター（大型ポスターでPR）
- ・見えやすいポスターが必要
- ・短期のお知らせに最適
- ・期限が過ぎたらすぐに撤去する
- ・ラミネート加工する

《社会的インパクト》

掲示板の設置は、場所の確保と費用の調達で制約ありますが、ごみボックス利用なら無料です。またごみボックスの利用はほぼ毎日で、視覚に入る可能性が掲示板より高くなります。通行人の目にも入るのでPR効果は満点です。

班（組）編成が原点

班（組）組織がコミュニティの原点

- ・町内会の班（組）は一定の区域で組織されている
- ・おおむね10～20世帯単位で班編成している
- ・顔の見えるつながりが町内会組織の基本になっている
- ・地域の絆づくりの原点である

災害発生時の共助（声掛け・助け合い）

- ・土石流災害で「近隣の声掛け」で命拾い
- ・避難不自由者の支援（支援要請を含む）

町内会の会費・各種募金を集める

- ・町内会運営の基金となる会費を集める
- ・「共同募金」「日赤募金」等の活動

《社会的インパクト》

10～20世帯で構成されている班制度は、“向こう三軒両隣”の顔の見えるコミュニティ集団です。

班制度は町内会の根っこになる最小単位のコミュニティ組織です。

募金活動の推進

日赤募金

- ・日本赤十字社の人道支援活動（国内外）の資金
- ・災害時の被災者支援、血液事業の推進

赤い羽根共同募金

- ・地域の社会福祉協議会に活動資金として配分
- ・地域福祉事業の推進
- ・大規模災害の被災地の復興支援など
- ・地域で活動しているNPO団体の支援
- ・町内会組織を通じた募金活動

《社会的インパクト》

広島市における共同募金（赤い羽根募金）の90%以上は町内会の募金活動です。募金の一部は社会福祉協議会に配分され、地域福祉の財源となっています。また“日赤募金”は、災害時における医療支援等の活動資金になっています。

自主防災会

地域の防災・減災への取組



- ・町内会や自治会などを主体として編成されている。
- ・班組織を通じた連絡網の整備
- ・各自主防災会毎に防災行政無線を設置し情報提供
- ・消防署や区役所と連携し講習会や訓練等を実施
- ・避難訓練の実施（組織がないとできない）

避難所の運営支援

- ・避難先での安否確認
- ・指定避難所の運営（行政との連携）
- ・自主避難所の設置（事業所との契約の締結）
- ・自主避難所の運営は町内会（自主防災会）が行う

《社会的インパクト》

災害時の避難誘導、避難先での住民の安否確認をはじめ、避難所の運営などの役割を担っています。また地域防災を担う防災士の養成を行い、専門性の高い地域リーダーが存在しています。

地域猫活動の取組

野良猫で困っていた

- ・餌付けをする人がいて“野良猫”が増えた
- ・動物管理センターの指導で地域猫活動を実施した
- ・捕獲後、動物管理センターで“不妊去勢手術”を実施
- ・手術後の“野良猫”は元居た場所に放す
- ・手術をしたネコは“耳に切込み”で識別できる
- ・不妊去勢手術により野良猫の増加を防止する

広範囲の理解と周知が必要

- ・近隣町内会との協力で住民に周知する
- ・飼い猫との区別のため飼い主の協力が必要



《社会的インパクト》

地域猫活動は広範囲の住民への周知と理解が必要です。

そのためには町内会による住民の合意形成と近隣の町内会の協力が大切です。地域猫活動によって地域の衛生環境が改善されました。

町内会の見える化

加入率が高い地域は安心のまち

《コミュニティと安全・安心》

町内会加入率の高い地域は、住民のつながりが強く、地域の“安全・安心のまちづくり”を支えています。近い将来、高齢社会（65歳以上が25%以上）の到来が予測されています。地域によっては、すでに高齢世帯や一人暮らし世帯が増加し、災害時の避難誘導等に取り組んでいます。

また民生委員と連携しながら社会福祉協議会では“いきいきサロン”“まごころ弁当”“敬老会”などの活動をしています。

一方、子どもの通学時の安全についても、有志による“見守り活動”が行われています。

また街路や河川の清掃も行政と町内会の協働で実施されています。

発行者：広島市佐伯区役所（地域起こし推進課）

TEL 082-943-9705

FAX 082-943-9718

令和2年（2020年）6月 発行

町内会活動の見える化集

地域社会で果たしている役割がよく分かります

広島市佐伯区まちづくり百人委員会

町内会いきいき部会編